

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501347		
法人名	社会福祉法人 誠友会		
事業所名	グループホーム いこいの森		
所在地	青森県上北郡おいらせ町緑ヶ丘一丁目50-2077		
自己評価作成日	令和3年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和3年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で地域の一員として力を活かすとともに、生活の中で役割や楽しみを持っていただき、生活の質の向上に繋げている。コロナ禍以前は、近隣の保育園や小・中学校、町内会等と交流を積極的に行っていたが、現在はコロナ対策のため行っていない。コロナが終息したら交流を再開したいと考えている。訪問看護師が週1回健康管理を行う体制にあるほか、24時間の医療連携体制や終末期・重度化に対する指針を整え、利用者や家族の希望に応じた最善のケアを提供できるように取り組んでいる。

ホーム周辺には、大型スーパーや耳鼻科、歯科等があり、生活に便利な新興住宅地に立地している。系列法人に特別養護老人ホームがある他、提携する訪問看護ステーションと連携しながら重度化や終末期の方にも対応できる体制を整えている。また、職員同士の連携も良く、勤続年数も長い職員が多く、利用者は安心して穏やかに毎日を過ごしている。コロナ禍で面会や外出行事ができない状態であるが、利用者がいかに毎日楽しく過ごせるかを考え、敷地内でできる様々な行事を実施する等、利用者の思いに寄り添ったケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を理解して、ホーム独自の理念を目の届く場所に掲示・共有し、サービス提供に努めている。理念は毎日の申し送り時に職員全員で唱えている。	ホーム独自の理念があり、毎日の申し送り時に職員全員で唱和し、理解を深めている。職員は日々理念を意識したケアを実践できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に入会している。コロナ禍以前は、隣接しているデイサービスの利用者と交流するほか、地域の小中学生の体験学習やボランティア等の受け入れを行っていた。現在はコロナ対策のため行っていない。また、法人全体の広報誌を系列の観光農園に設置して情報発信に努めている。	コロナ以前は保育園からの訪問がある等、地域交流があったが、現在はコロナ対策のため行っていない。町内会に入会したり、観光農園に広報誌を置く等して、地域と交流ができるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、役場職員や地域包括支援センター職員、民生委員等が参加し、認知症についての様々な問題の相談等に応じている。現在はコロナ対策のため、資料を送付して情報提供・報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以前は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況やホームの取り組み等を報告して意見をいただき、サービスの質の確保や向上に繋げていた。現在はコロナ対策のため、資料を送付して情報提供・報告を行っている。	現在、運営推進会議は書面で行っており、近況報告や情報交換等を行っている。メンバーから様々な意見をいただき、今後のサービス向上に活かすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍以前は、役場担当者に運営推進会議に参加していただき、意見・情報交換を行っていた。現在はコロナ対策のため、資料を送付して情報提供・報告を行っている。今年6月に地域包括支援センターと連携し、利用者が飼っていたペットの遺骨の納骨を行った。	町の担当職員は運営推進会議のメンバーになっており、様々な意見をいただいている。課題解決に向けて利用者に適切な支援ができるよう日頃から連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、内部研修で身体拘束について勉強会を行い、全職員が理解をしている。また、身体拘束は決して行わないという意識を持ち、日々のケアを提供している。玄関は防犯のため夜間のみ施錠している。	ホームでは身体拘束廃止委員会による定期的な会議のほか、内部研修や勉強会等を行っており、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。身体拘束は行わないという方針で日々のケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、内部研修で虐待について勉強会を行い、全職員が理解している。また、虐待を決して行わないという意識を持ち、日々のケアを提供している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で勉強会を行い、理解を深めている。必要に応じて家族に情報提供し、サービス利用に繋げる支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念や方針について説明し、利用者や家族の同意を得ている。また、退所時には情報提供や支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やお便り等で利用者の暮らしの様子を報告し、意見や要望を確認している。また、玄関に苦情・相談ボックスを設置している。苦情等が出た場合には、速やかな対応ができる体制を整備している。	職員は日々のケアの中で利用者の意見を察するように努めている。また、家族が面会に来た際に声掛しているほか、毎月お便りを郵送する等、いつでも意見や苦情を出しやすいようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見等は、速やかに代表者や法人本部に伝え、運営に反映させるように努めている。また、年2回職員が自己評価を実施しており、その際に意見等を自由に記入できるようにしている。	毎月の職員会議や年2回の自己評価時に、職員が自由に意見や提案できる機会を設けている。様々な意見や提案により、より良いホーム運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の遵守に努めているほか、勤務表作成時には職員の都合を配慮している。また、定期的に健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成しており、認知症ケアに関する内容を中心に実施している。外部研修は受講者を選出し、受講させる予定だったが、コロナ対策のため参加を控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入しており、交流や連携の機会を確保できるように努めている。現在はコロナ禍のため、書面で情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で見学（現在はコロナ禍のためドア越しでの見学）をしていただいている。困っていることや不安に思っていること等を傾聴して、安心していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で困っていることや不安に思っていること等を傾聴し、不安を取り除き、安心して利用していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族、ケアマネジャー、利用していたサービス機関等から情報収集し、ニーズを見極めてサービスの利用に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で利用者の力量を見極め、掃除や茶碗拭き、お盆拭き、配膳、洗濯たたみ等の役割を担っていただき、職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態を電話やお便り等で報告している。状態変化や利用者の希望があるときは、都度連絡して協力していただき、一緒に支え合っていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族等から電話したい、手紙を書きたい等の希望があった場合は、柔軟に対応できる体制となっている。コロナ禍以前は、家族に行事へ参加していただき、一緒に過ごせるようにしていた。	入居時に聞き取りを行うほか、日頃の関わりの中で馴染みの人や場所について把握するように努めている。家族や知人から電話や手紙で連絡があった際は支援して、馴染みの関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう職員が介入する等、利用者同士で円滑な信頼関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、相談が可能であることを説明している。また、退所先の関係者に環境や暮らしの継続性に配慮してもらうよう利用者の情報等を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報収集したり、日々の生活の中から利用者の意向を汲み取り、把握するように努めている。	職員は日々のケアの中で利用者の視点に立ち、思いや意向を把握するように努めている。また、家族や関係者から情報収集し、利用者本位で検討し、より良い支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、環境等の情報収集を行い、その人らしい生活ができるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時の情報や家族からの聞き取り、入所後の日々の観察等により、利用者個々の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望等を聞き入れているほか、職員間で話し合って介護計画を作成している。	日々のケアの中で利用者の意見や意向を聞き、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画の説明の際は家族に来所していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや記録で情報を共有している。また、担当者会議で利用者の状況を話し合い、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度話し合い、利用者一人ひとりのニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は、地域のボランティアを受け入れたり、民生委員に運営推進会議へ出席していただく等、交流や地域資源の把握に努めていた。また、外出行事でショッピングセンター等に行き、買い物や食事を楽しめるようにしていた。現在はコロナ対策のため自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族が希望する医療機関を受診できるように支援し、適切な医療を受けられるようにしている。	入居前の通院歴を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるようにしており、通院についても家族対応が困難な場合はホームでも対応している。受診結果の伝達方法についても、利用者や家族の納得が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、健康管理のため訪問看護師に訪問していただいている。その際に、利用者の状態を相談したり、アドバイスをいただく等、利用者個々が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行っている。また、入院中は医療機関で実施している在宅ケアカンファレンスに出席し、利用者の状況や退院の目途等について情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明している。また、利用者や家族と話し合いをして意向を確認し、方針を共有している。	入所時に重度化した場合や終末期について指針を説明している。利用者や家族の意向を尊重し、希望があれば看取りの対応はできるように、日頃から医療機関や訪問看護師と連携を図っており、体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備え、AEDを用意している。また、応急手当や初期対応に備えてマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した消防訓練を実施しているほか、消火器や避難経路確保等の設備点検を毎月行っている。また、食料やその他必要な物品を備蓄している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。また、災害時に備えて食料等の備蓄品も用意しており、日頃から災害発生時に対応できるように備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行うほか、プライバシーを損ねることがないように対応している。また、自己決定しやすい声掛けや対応をしている。	利用者には「さん」付けで呼んでいる。常に利用者を尊重し、言動を否定せず、一人ひとりのペースに合わせたケアができるよう心掛けている。職員会議等で声掛けについて振り返るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの希望を尊重している。また、日常生活の中で思いや希望を確認し、自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの力量を見極め、茶碗拭きや掃除、洗濯物たたみ、散歩等、希望に沿った生活支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや季節に合った衣類選びを職員と一緒にいき、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への関心を高めるために、利用者の希望を献立に取り入れたり、日頃から準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。また、母の日や敬老の日等は、折詰弁当等を提供している。	利用者の希望や好き嫌いを考慮し、献立を作成し、手作りの料理を提供している。職員は食事介助や食べこぼしのサポートを行いながら適度に声掛けをする等、食事の時間を楽しく過ごせる雰囲気作りを心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに応じた量や栄養バランス、水分量、塩分量、嗜好等に配慮している。また、1日の水分摂取量をチェック表に記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、食後に口腔ケアを実施している。自力でできない部分は職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況を把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。また、ズボンの上げ下げ等、自力でできる事は行っている。できな事は職員が支援している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を記録しており、それぞれの排泄パターンに応じて、羞恥心やプライバシーに配慮したトイレ誘導を行っている。利用者の状態に応じて、排泄の自立支援に向けた見直しを随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便状況を把握し、水分量の確保や適度な運動を取り入れる等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	希望に合わせて時間をずらす等、利用者一人ひとりの意向で入浴できるように支援している。	週2回入浴できるようにしており、利用者のその日の体調や状況に合わせて個別に支援している。利用者それぞれの習慣、意向に沿った対応をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くするようにしている。午前には体操や歩行訓練等を行い、午後は塗り絵や貼り絵等の趣味活動を利用者一人ひとりのペースで行い、夜間に気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書のファイルを作成しており、いつでも確認できるようにしている。服薬時は、名前や日付、朝・昼・夕の確認をしてから服用していただき、飲み込みの確認もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力量を見極めて、それぞれに合った役割を担っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、希望時に外出できるよう支援をしたり、食事会や買い物、花見等の希望をしながら定期的に外出ができるように支援していた。現在はコロナ対策により自粛している。	コロナ禍で外出支援ができないため、敷地内で流しそうめんやバーベキュー、焼き芋作り等を行い、利用者が楽しんだり気分転換できるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍以前は、預かっているお金を外出時に使ったり、希望する物を職員と一緒に買う等の支援を行っていた。現在はコロナ対策により外出行事を自粛しているため実施できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、希望時は電話をかけることができる。また、手紙を出したいというときは支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやカーテン、温湿度計を設置する等、利用者にとって過ごしやすい環境となるよう工夫している。季節を感じることに、花を置いたり装飾を行う等して、心地よく過ごせる工夫をしている。	ホールの窓からは十分な日差しが入り、明るい雰囲気が保たれている。温度・湿度を適切に管理しており、利用者は快適な環境の中でそれぞれのお気に入りの場所で思い思いに寛いで過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が個室となっており、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士が行き来する等、思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から愛用している物等を持ち込んでいただき、利用者一人ひとりに合った居室作りを行い、居心地よく安心して過ごせるように支援している。	入居時には可能な限り馴染みの物を持ってきていただくようお願いしている。持ち込みが少ない場合は、職員と一緒に作った手作りの写真を飾る等して、一人ひとりに合った部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手すりを設置する等、バリアフリー化しており、安全に移動することができる。また、利用者の状況に合わせて目印や表示をつける等の工夫をしている。		